



仙台塩釜港復興だより 第20号

－ 港湾は人の心も結んでいます －

災害復旧工事の進捗について

宮城県仙台塩釜港湾事務所では引き続き、東日本大震災により被災した公共土木施設の災害復旧工事を進めています。平成28年3月14日時点における仙台塩釜港の公共土木施設の査定件数に対する発注件数の割合は97%、防潮堤とその関連施設を除いた発注率は99%となっています。

仙台港区においては、一部施設を残し復旧を完了しており、塩釜港区、松島港区につきましても、発注率がおよそ9割となっており、引き続き復旧工事を進めています。復旧が遅れている防潮堤の復旧を含め、一日でも早い復旧を目指して取り組んで参ります。

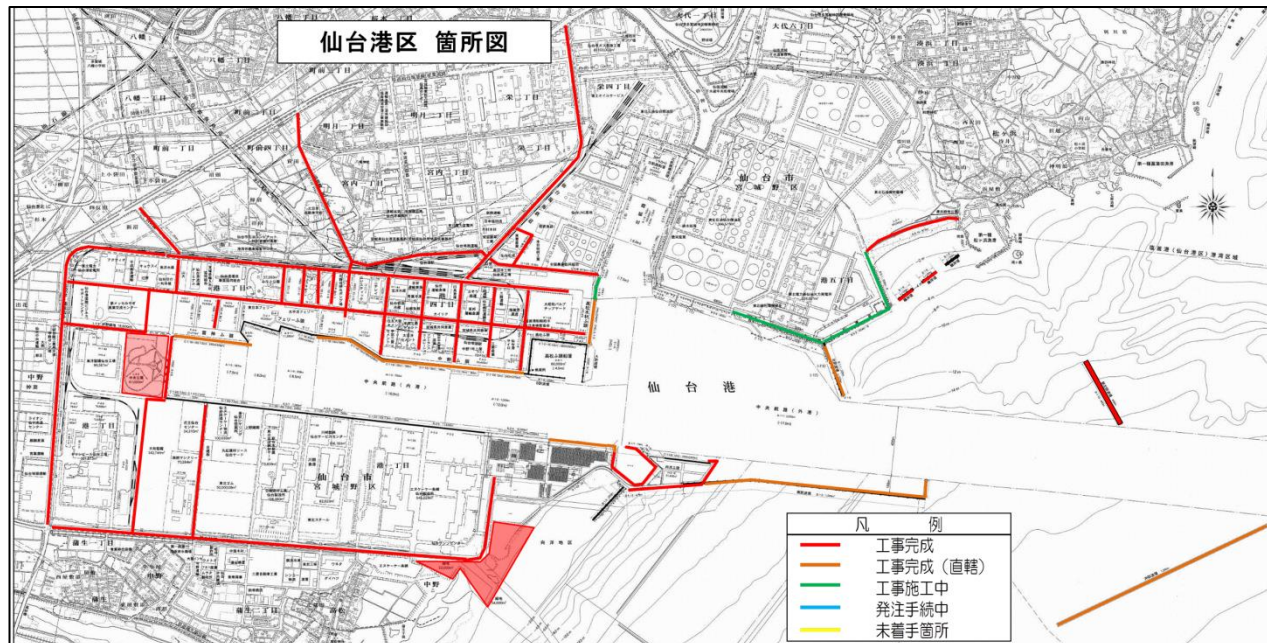
公共土木施設全体の災害復旧工事 (箇所毎)

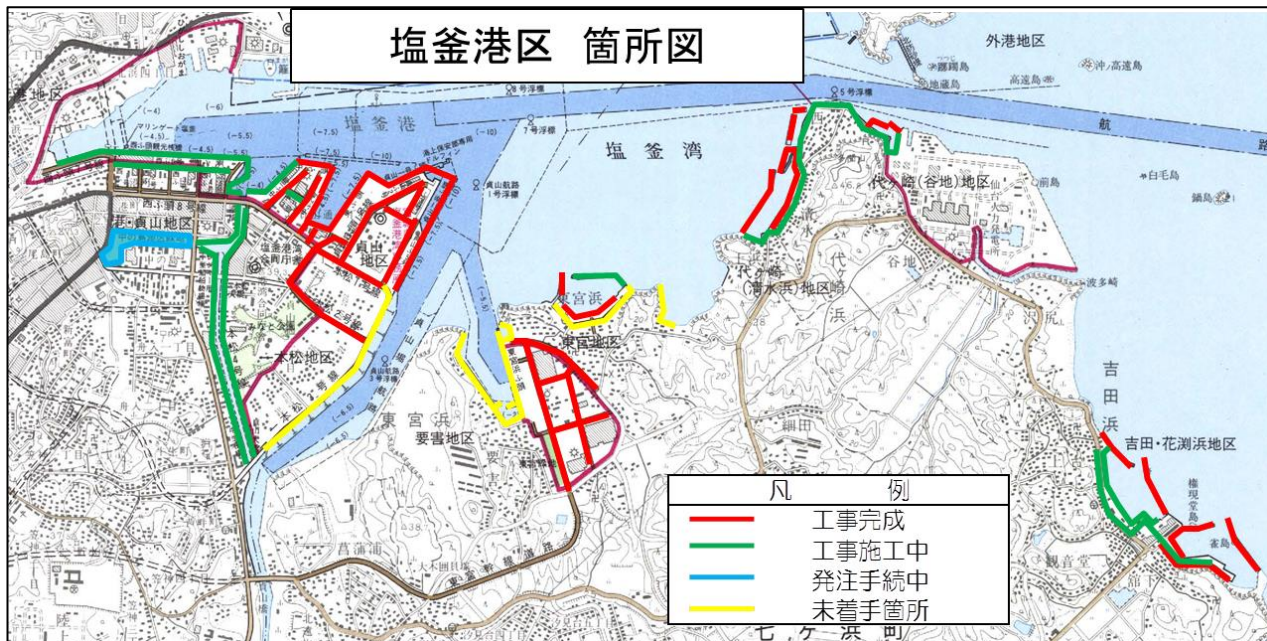
	発注率	完成率
仙台塩釜港 (仙台港区)	100%	96%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	95%	26%
仙台塩釜港 (松島港区)	100%	56%
合計	97%	48%

防潮堤関連除く災害復旧工事 (箇所毎)

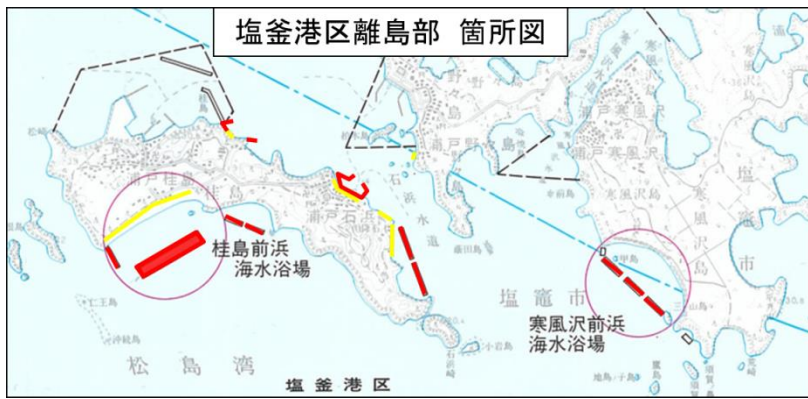
	発注率	完成率
仙台塩釜港 (仙台港区)	100%	98%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	98%	36%
仙台塩釜港 (松島港区)	100%	75%
合計	99%	60%

平成28年3月14日現在

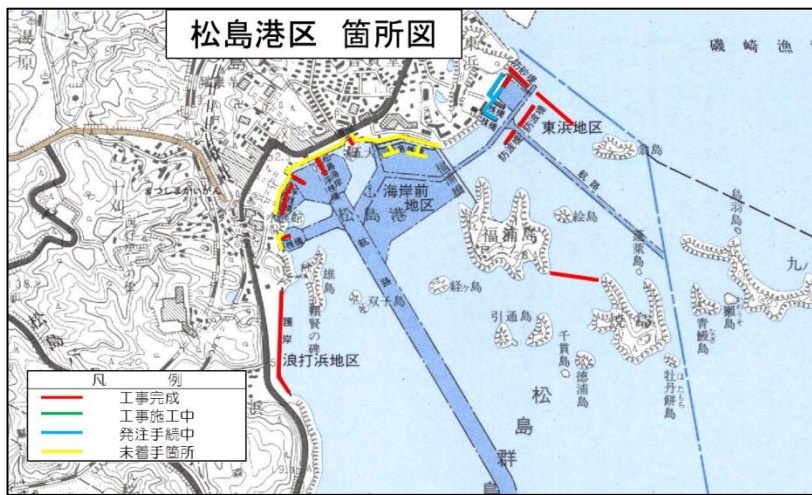




吉田浜防波堤(H28.3月)

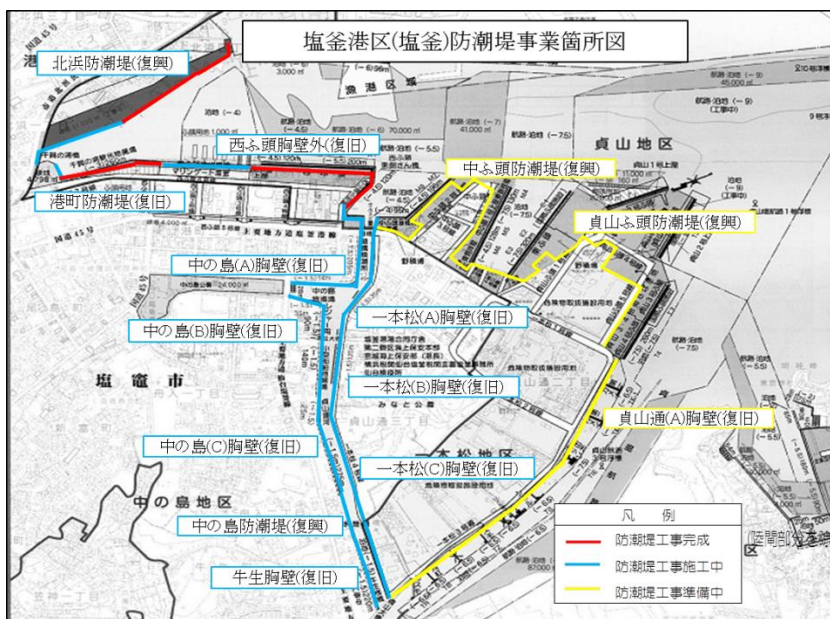
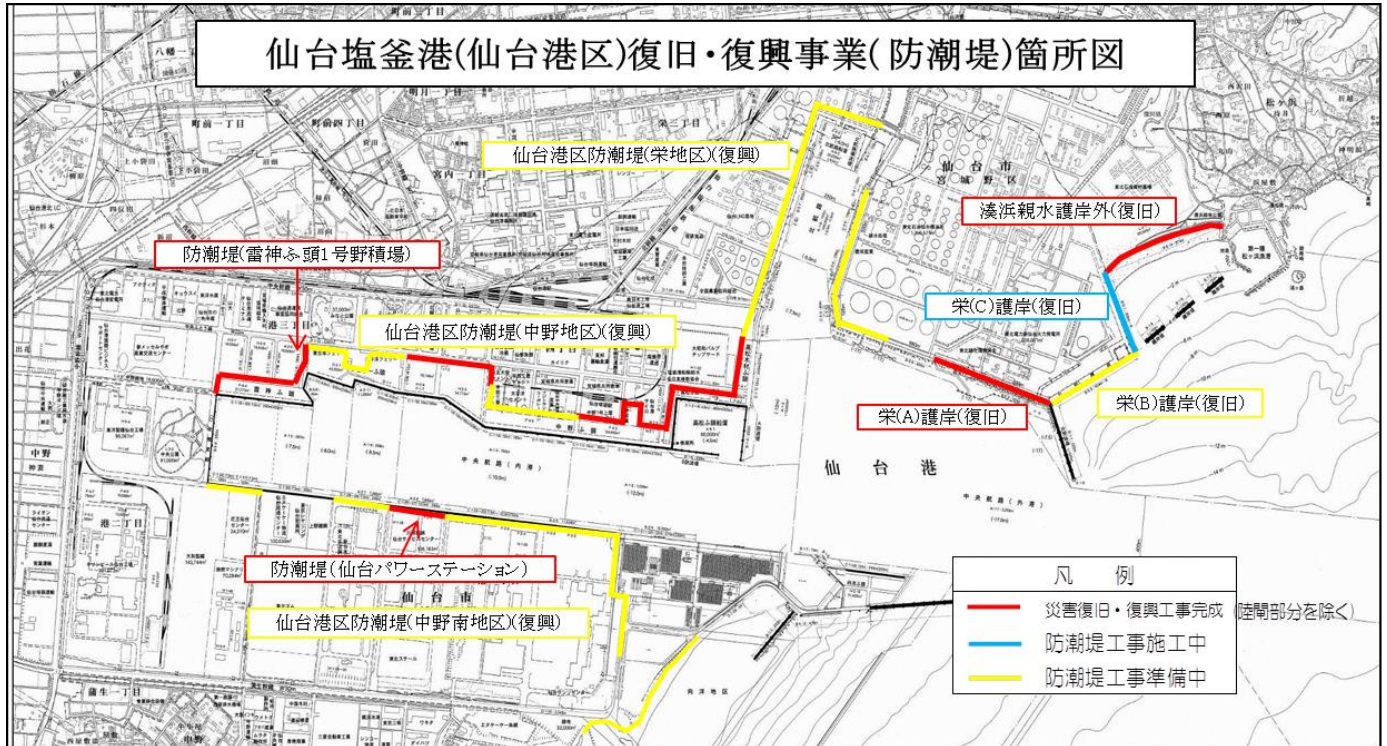


西ふ頭胸壁(H28.3月)



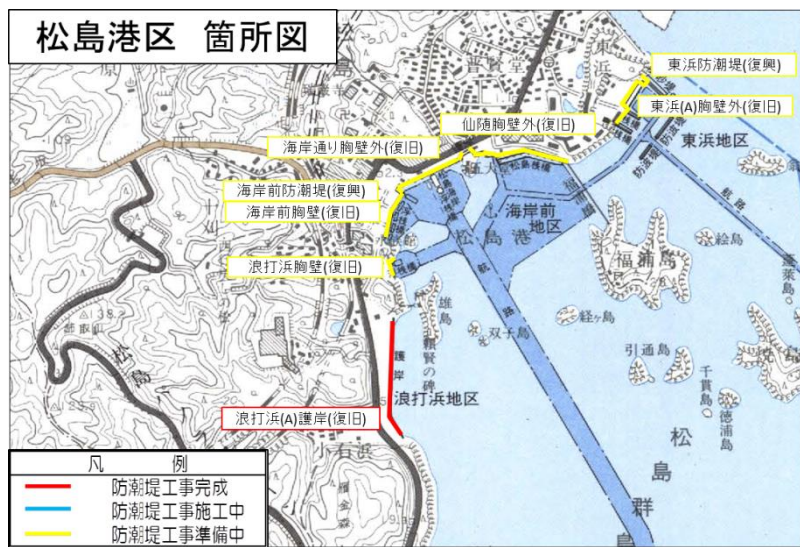
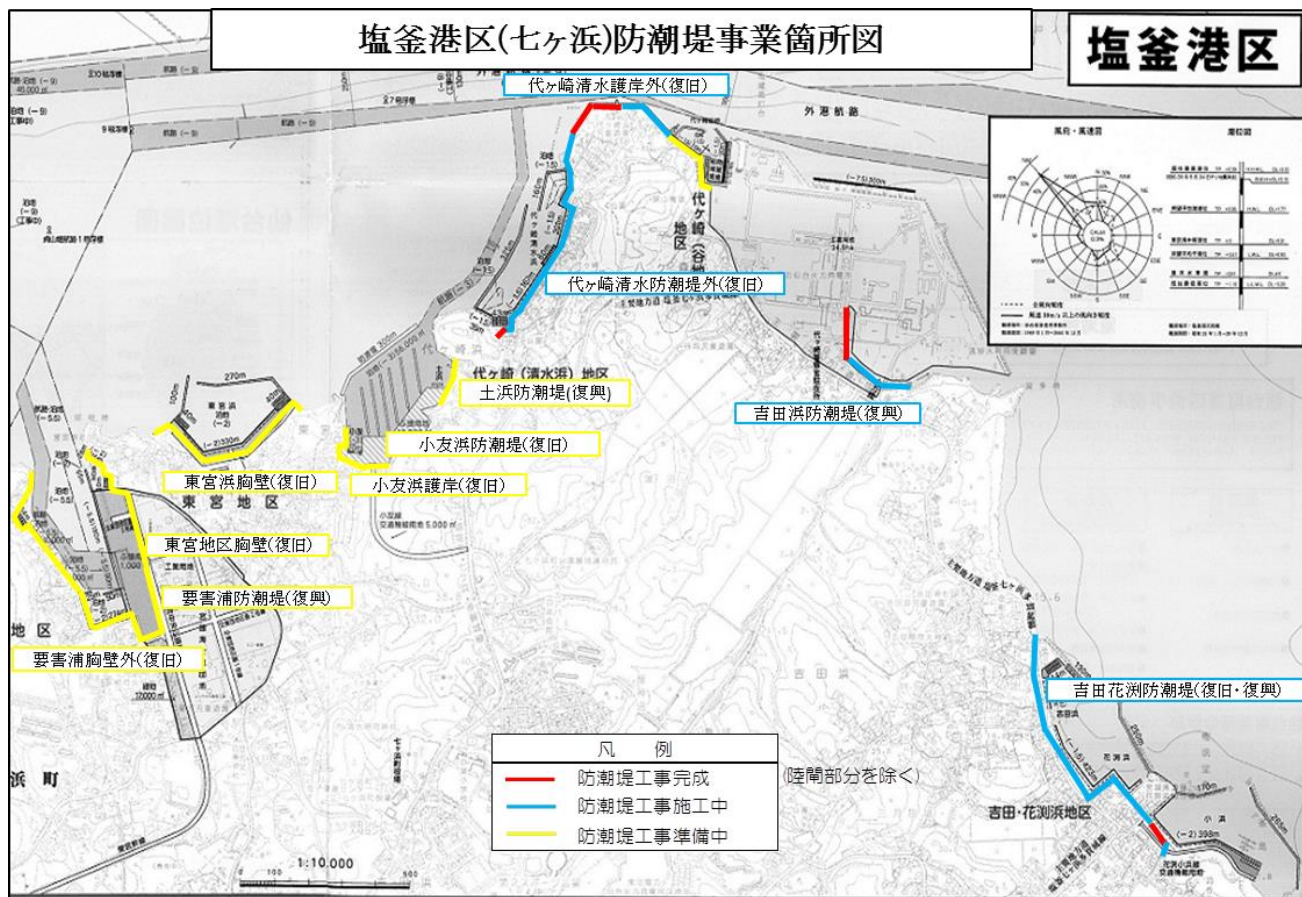
防潮堤事業の進捗について

宮城県仙台塩釜港湾事務所では、仙台塩釜港における東日本大震災により被災した防潮堤の災害復旧工事、ならびに復興事業として新規防潮堤の建設工事を進めています。平成28年3月14日時点における仙台塩釜港の防潮堤工事の進捗については以下の図のとおりです。仙台港区においては、中野地区および湊浜、栄地区で防潮堤工事が進んでおり、一部施設を残し工事を完了しています。塩釜港区においては北浜～西ふ頭ならびに貞山運河沿い(中の島胸壁、一本松胸壁)にかけて防潮堤工事が進んでおります。松島港区につきましては、波打浜(A)護岸が平成27年11月に完成し、残りの工区につきましては、工事に向けて準備等を進めています。復旧が遅れている防潮堤の復旧を含め、一日でも早い復旧を目指して取り組んで参ります。



仙台港区防潮堤(雷神ふ頭)(H28.3月)





代ヶ崎清水護岸(H28.3月)

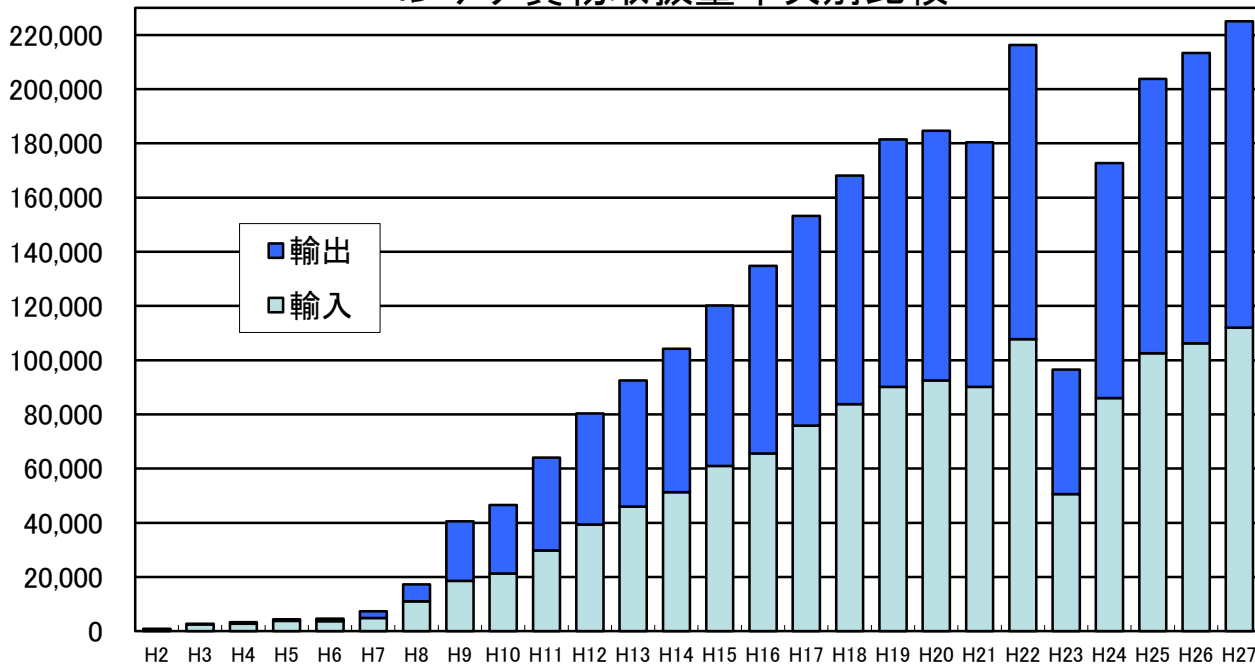


平成27年の貨物取扱量の速報値について

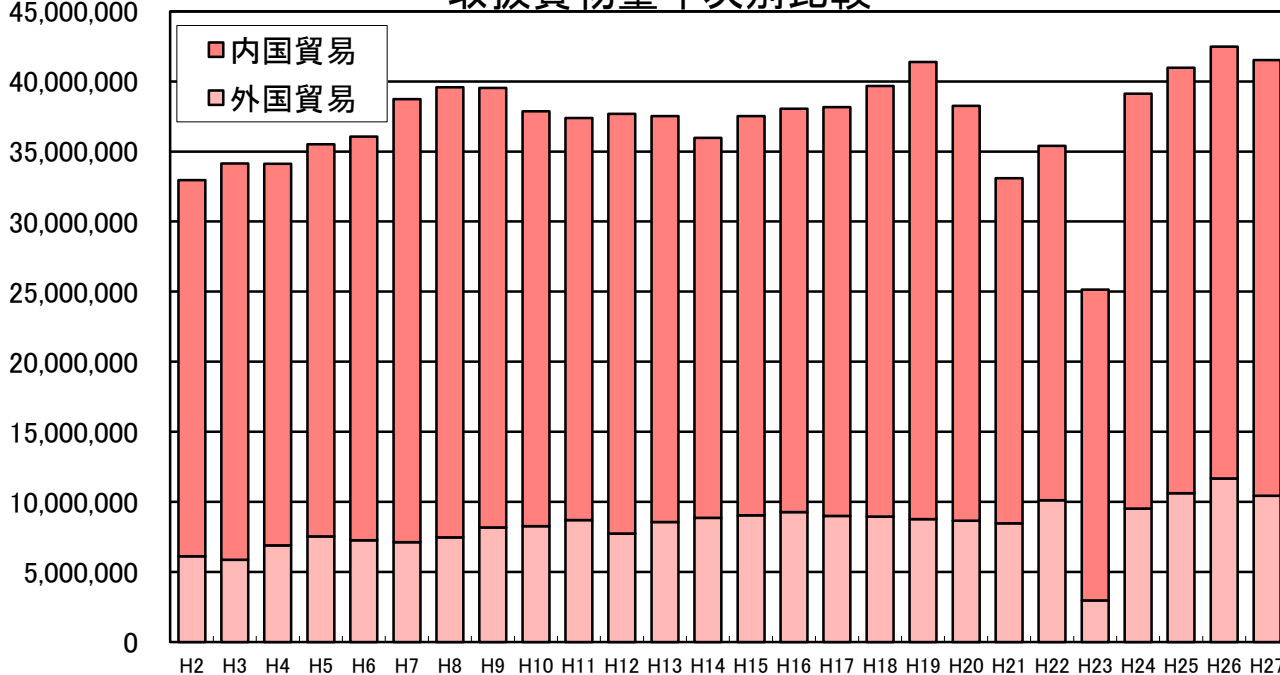
仙台塩釜港（仙台港区・塩釜港区・松島港区）における平成27年の取扱貨物のうち、コンテナ貨物の取扱量は、速報値で約22万5千TEUとなっています。これまで最高値を記録した平成22年と比較すると約104%となり、過去最高の取扱量となります。今後取扱量の更なる増加が予想されるので、高砂CTの拡張を推進して参ります。

一方、平成27年の年間取扱量は速報値で約4153万4千フレート・トンとなっています。平成26年と比較すると約98%と、前年とほぼ同じ水準であり、歴代2位の取扱量となります。今後も災害復旧工事を着実に実行しながら、港湾の機能の拡充に努め、さらなる貨物取扱量の増加を図って参ります。

(TEU) コンテナ貨物取扱量年次別比較



(フレート・トン) 取扱貨物量年次別比較



仙台塩釜港で働く応援職員のみなさん

仙台塩釜港で働く応援職員の方々の紹介は本号で第7回目となります。今回ご紹介するのは、鳥取県から応援に来ていただいている「林原 龍之介さん」、東京都からは「渡井 祐樹さん」、「酒井 裕太郎さん」です。

平成27年度も多くの応援職員の方々から、復旧・復興にご尽力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成28年度も、応援職員の方々のご協力を賜りながら復旧・復興を進めて参りますので、引き続き復興だよりで応援職員をご紹介する予定です。

「林原 龍之介さん」【平成27年12月寄稿】

今年度4月から派遣で来ました鳥取県の林原と言います。震災当時は本庁勤務でしたが、県庁舎も大きく揺れ、すぐにテレビをつけましたが、時間の経過とともにあちこちで津波の被害が映し出される様を見て大変驚いたものです。

地元では河川や砂防関係を比較的長く担当していましたが、港湾事業も3年間担当していました。この時の経験が役にたったのか、こちらに来て、なんとか仕事を進めることが出来たように思います。

仕事の関係で山形県に1度行ったことがあるくらいで、東北には全く縁がありませんでした。鳥取県から東北は非常に遠いので、なかなか来ることが出来ません。そのため、3連休などを利用して東北、北海道、北関東などを旅行しています。私の地元にも温泉はありますが、宮城県は日帰り温泉が充実しているようで、県内の温泉にもいくつか行きました。

早いもので宮城での生活も9ヶ月が過ぎてしまいましたが、残りの期間も充実した時間が過ごせるように、震災復興のお役に立てるように仕事を頑張りたいと思います。また、休日も出来るだけ多くの観光地を回って帰りたいと思います。



●搬入する資材の確認をする林原さん

「渡井 祐樹さん」【平成27年12月寄稿】

東京都から派遣で参りました渡井祐樹です。10月から12月末までの短い間ですが、よろしく申し上げます。現在、派遣先の仙台塩釜港湾事務所では、港湾施設等に係る災害復旧工事の現場監督業務等を担当させていただきます。

業務に携わる中で感じたことは、災害復旧工事というスピード感を重視した結果、契約後でも事前調整や課題事項等が多く残っていることです。自分が担当している七ヶ浜町の工事現場においては、港湾施設の背後が工業及び商業施設が立ち並ぶ東京港とは異なり、港湾施設のすぐ背後に住宅があるため、迅速な住民対応が必要な工事であります。工事契約後の住民説明会での要望を受けて、施工方法の変更や構造物法線の変更などを受注者と十分な密な調整し、迅速な対応を行っています。引き継ぎ、円滑な調整及び課題解決に努めていきます。

また、派遣期間内でさまざまな被災地に行かせていただきました。津波によって被害を受けた建物や住宅の土台しか残っていない住宅跡地を目の当たりして、映像以上に津波の脅威を再確認しました。

自分が貢献できることは小さなことかもしれませんが、地震及び津波で被害を受けた宮城県のために、任された業務を着実に遂行していきたいと考えています。



●消波ブロックの搬入を確認する渡井さん

「酒井 裕太郎さん」【平成28年3月寄稿】

東京都港湾局から参りました酒井裕太郎です。派遣元では、積算基準、単価表、積算システム、CAD等の管理・運營業務を担当しています。

私は、平成23年8月に福島県相馬港湾建設事務所、平成28年1月～3月に宮城県仙台塩釜港湾事務所へ派遣と2度目の被災地派遣になります。福島県派遣の際は、相馬港の災害査定の準備、査定設計書の作成を行いました。この度の派遣では、塩釜港区の災害復旧工事の監督業務を担当しています。派遣先は異なりますが、震災から5年が経っていることもあり、前回に比べ、多くの事業が復興に向けて進んでいると感じました。

一方で、未だ震災の爪痕が残り、復旧は道半ばである施設も存在するのを感じました。特に、七ヶ浜町の代ヶ崎清水防潮堤他災害復旧工事の現場は、不調が相次いだ為、工事に着手したばかりで、被災当時の状態のままのとなっていました。その監督業務の際に、地元住民の方々や施設利用者と会話する中で、震災当時の様子や、復興への思いを伺い、派遣職員として少しでも活躍できればと奮起する機会がありました。

短い派遣期間ですが、監督員として様々な調整を行いながら、工事が前進するよう尽力して参ります。



●七ヶ浜の現場を確認する酒井さん

～今年度お世話になった応援職員の方々の写真～



東京都・柳瀬さん (H27.4～6)



大分県・田邊さん (H27.4～H28.3)



東京都・菊池さん (H27.7～9)

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132

FAX 022-254-3136

E-mail sdsgkowns@pref.miyagi.jp